

科目名	慢性看護学実習II Practice in Chronic Care Nursing II
授業形態	実習
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時間等	通年 応談
単位数	4単位
担当教員名	柴山大賀 Shibayama Taiga 日高紀久江 Hidaka Kikue 阿部吉樹 Abe Yoshiki
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) オフィスアワー等	なし オフィスアワーは特に定めませんが、下記に連絡・調整したうえで訪問すること taiga@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1) 慢性病患者のおかれている状況を包括的にアセスメントできる。 (2) アセスメントにもとづき、患者と家族に対して状況に応じた援助計画を立案できる。 (3) 慢性病患者とその家族に対して、状況に応じた援助方法を実践することができる。 上記に加えて、実習環境に応じて、下記のひとつ以上の達成を目指す。 (4) 看護職者を含むケア提供者に対して、慢性病患者とその家族の抱える問題についてのコンサルテーション活動ができる。 (5) 慢性病患者とその家族に必要なケアを円滑に提供するために、保健医療福祉に携わる人々の調整ができる。 (6) 慢性病患者とその家族に対するケアを向上させるために、看護職者への教育的な関わりができる。
他の授業科目との関連 履修条件	慢性疾患看護専門看護師養成課程のすべての科目 将来的に慢性疾患看護専門看護師の資格を取ることを強く望む者 上記の希望について事前の面接により確認する
授業概要	多様な治療環境(病棟・外来・地域)において支援対象者を設定し、入院から退院後にわたる支援を継続することにより、慢性看護専門看護師の役割機能を各自の専門領域に関して実践する。
キーワード	慢性病, 専門看護師, 臨床実践
授業計画	多様な治療環境(病棟・外来・地域)において慢性看護学領域における複雑な問題を抱える患者や家族を支援対象者に設定し、入院から退院後の期間にわたる支援の継続性の観点から、慢性疾患看護専門看護師の役割機能を各自の専門領域に関して実践する。具体的には以下の8つの内容を含める。 1. 病棟、外来における慢性疾患医療が実施され、地域との連携が充実している医療施設において、高い専門性を持つ看護師の指導のもと実習を行う。 2. 発病期または急性増悪により入院した慢性疾患患者を受け持ち、包括的なアセスメントに基づいた支援計画を立案する。 3. 医学的診断や治療過程における治療環境の調整、身体的ケア、心理的ケアを計画、実施する。 4. 退院へ向けた環境調整を他職種や地域と連携して計画、実施する。 5. 長期的な療養生活を見据えた教育、指導的関わりを計画、実施する。 6. 退院後は外来や地域において定期的に患者と関わり、継続的な支援を実施する。 7. 常に援助計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向けた実習計画の修正を行う。 8. 実習での実践内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のそれぞれの視点から実習報告書を作成する。 なお慢性看護学領域における複雑な問題を抱える患者とは、1) 医療介入が必要な重篤な疾患を複数抱えていながらも現時点での自己管理が不十分である、2) 精神疾患や認知機能の障害などで自己管理に限界があるにもかかわらず、一人暮らしなどで他者からの十分なサポートが得られない環境下にある、3) 患者と家族の意向が一致しておらず、サポートが不十分で疾患管理がうまくいかない、などのうち、ひとつ以上を満たす状況にある者とする。 実習施設は、株式会社らふるの訪問看護ステーションのほか、下記のうちから選択する。 順天堂大学医学部附属順天堂医院 船橋市立医療センター 昭和大学病院 東京歯科大学市川総合病院 学校法人獨協学園獨協医科大学越谷病院
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	事前に与えられた課題を準備しておくこと。 実践演習を行う病院や病棟・外来、訪問看護ステーションが開催する症例検討会に積極的に参加する。
成績評価方法	最終評価が60点以上をもって単位を認定する。 <評価方法と評価配分> 実習前計画 5点, 実習指導者からの評価 80点, 最終レポート 15点 評価の詳細は別途配布する実習要項を参照のこと
教材・参考文献・配布資料等	実習要項の原案を配布するので、各自の実習内容に合わせて適切に修正する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	遅刻、途中退出、やむを得ず欠席する場合の扱いについては、受講生の状況を鑑みて各担当教員が決定する。 実習期間は6週間とする。ただし、慢性疾患看護専門看護師の資格取得のために、最終評価が60点に到達するまで、実習期間を延長する。